



学校教育目標 社会に貢献しながら、
自立する生徒の育成
～気づき、考え、実行する～

やまゆり

校訓 「和の心」

指導重点

- ① 居心地がよく、やる気のある
学級集団・学校づくり
- ② 確かな学力の育成
- ③ 健やかな身体の育成
- ④ 豊かな心の育成
- ⑤ 生徒の良さを伸ばし、課題を
解決するための「連携・協働」を推進する



通学路の合同点検 ありがとうございます！

10月24日(木)の午後、『道志村通学路安全推進協議会(以下「協議会」)』の委員(村関係者、道路管理者、警察関係、保護者、教職員から構成)の委嘱後、村内の危険箇所の点検を行いました。この協議会は、平成25(2013)年12月の「通学路の交通安全の確保に向けた着実かつ効果的な取組の推進について」に基づき設置され、以来、毎年通学路の合同点検を実施しています。

本村の児童・生徒は、徒歩、又はスクールバスで登下校をしています。村内を縦断する国道413号線、通称



「道志みち」は、富士五湖方面と神奈川県を結ぶルートで、以前から高速道路渋滞の迂回路として

でも知られていました。これに加えて、二輪車や自転車のツーリングコースとしても人気があり、週末だけでなく、平日の交通量も格段に増えています。

そのため、児童・生徒は、今まで以上に交通安全に気を付ける必要があります、学校において



も、日常的に注意を呼びかけています。

また、本村では、登下校の見守りをはじめとする児童・生徒を取り巻く、学校安全上の課題に対して、『道志村児童生徒の登下校見守り活動隊』を組織し、地域ぐるみによる交通安全の取組を推進しています。大変ありがたく、児童・生徒は安心して、学校に通うことがで

きます。スクールガード・リーダーや地域の方々、保護者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

なお、今回の通学路の合同点検では、次のよ



うな課題が指摘されました。早急に改善できることもあり、対応していただく予定です。

- ◇ 夜になると真っ暗で、街灯が欲しい。
- ◇ 国道の横断が危ない。横断歩道が欲しい。
- ◇ 草が伸びて、歩行困難な場所がある。等々

“入りやすく、見えにくい場所に 注目する”ってどういうこと？

“2015年に刊行された書籍を、今、多くの人が手に取っている”……そんな評判を耳にして、私も購入しました。本のタイトルは、『子どもは「この場所」で襲われる』(小宮信夫・小学館新書・990円)です。本の帯には「暗い夜道は危ない、怪しい人には気をつけて……、こんな教え方では、子どもを守れない!」「親&教師必読の最新防犯マニュアル」「怪しい“人”は見分けられないが、危険な“場所”はすぐわかる!」等々、こんなキャッチコピーが並びます。

本書では、犯罪学を学んだ防犯のスペシャリストが、「危険な場所」を見分けて、子供を犯罪から遠ざける方法を分かりやすく解説しています。これは「人」に注目する「犯罪原因論」ではなく、「場所」に注目する「犯罪機会論」によるものです。現在、世界の主流となっている最新の犯罪理論の考え方だそうです。

これまで私は、生徒に「不審者(不審車両)に気を付けて!」と呼びかけていました。この本を読んで、「人」だけでなく、「場所」に注目する、防犯対策を取り入れていきたいと思います。“一読の価値あり”です。